

防災



中学校

高校

道徳

総合

NHKスペシャル

49分

防災力クライシス

そのとき被災者を誰が救うか

(2011年放送)

この番組の良さ



自治体防災力の限界から学ぶ

本番組は、阪神・淡路大震災を教訓に自治体の防災力の現状について疑問を投げかけています。特に被災からの24時間は、他地域からの救援が期待しにくく、被災自治体の防災力が要となってきます。その防災力が地域の超高齢化など様々な問題によって低下してきています。このような現状を踏まえ、これからの防災の在り方について考えを深めていきます。

情報活用と連携が防災力向上の要

情報を整理し、どう活かすかを課題に、防災力向上に取り組む芦屋市の映像から、集められた情報の有効活用の大切さが伝わってきます。また自治体の防災に対する限界に、住民が自分たちで身を守ろうとする姿勢や住民同士の助け合いを想定した取り組みの重要性を感じ取ることができます。自治体との連携と一人一人の防災意識向上が、次の災害に立ち向かう我々の取るべき姿勢だと気付かされます。

番組活用のポイント

防災力平均56.3点の現状から考える

防災力の向上を阻む要因として、防災に関する予算をはじめ担当職員の削減や、地域活動の担い手が超高齢であり、災害時に対応できない現状などが挙げられます。これらを踏まえた防災力に関する自治体の自己採点は、平均56.3点であり防災に対する備えが不十分なことが分かります。また番組の災害シミュレーションから医師不足や応急救護所の増設の必要性など、現状の防災力に関する問題点を考察し、災害に対する意識を高めることができます。

情報分析力が被害を最小限にとどめる

阪神・淡路大震災では、救助要請が殺到し消防をはじめとする市の職員全てが救援に出され、被害の大きかった地域への対応が遅れたことが死傷者の増大へと繋がっています。

災害の情報を把握できなかった点や集められた情報を整理できなかった点などが課題として挙げられています。人的・物的支援をいかに有効活用するか、どうすれば要員を無駄なく配置できるかは、情報の分析力によって大きく左右されることが分かります。

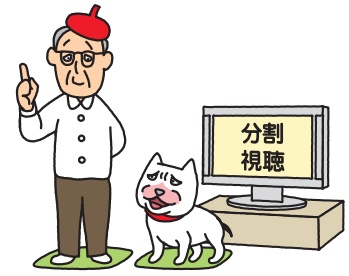
また自治体の防災力に限界があることから、集められた情報を有効活用する兵庫県芦屋市の例や、地域住民が町と連携を図る兵庫県佐用町の例など、具体的に防災力向上に向けての取り組みを、番組を通じて知ることができます。

地域防災計画を見直し、想定外の被災者を救う

NHKスペシャル『巨大津波“いのち”をどう守るのか』(P.28)と合わせて視聴し学習することで、あらゆる災害に対する防災意識の向上を図ることができます。地域住民として自治体と連携し、災害に備え迅速に対応するための知識と態度を学べます。

学習展開例

授業時間 100分

大震災から学ぶ
防災力向上のためにできること

時間配分	学習活動	教師の支援
15分	<p>①防災について知っていること、取り組んでいることを発表する。(地域の現状など)</p> <p>②災害を想定したシミュレーション映像を見る。</p>  <p>・ M7.3の地震を想定した災害シミュレーション (開始～3分20秒)</p>	<p>○自分の暮らす地域について、防災の取り組みの現状で知っていることを発表させる。</p> <p>○災害シミュレーションの映像から、感じたことや気づいたことなどをノートに記入し発表させる。</p> <p>○出された意見を板書き整理する。</p>
25分	<p>③続きを視聴する。防災に対する地域住民としての役割を考える。ノートに記入した内容を、グループなどで意見を出し合う。 (特に問題を感じた点をメモする)</p>  <p>・自治体の防災力平均点は56.3点 (3分20秒～19分31秒)</p>	<p>○自治体の防災の現状をメモする。</p> <p>○阪神・淡路大震災で情報が整理できなくなった課題を踏まえ、どのように改善して取り組んでいるかに着目する。</p> <p>※災害対策担当職員の削減が進む中、防災力の低下を補うため情報をどう活かしていくか、効率的・効果的な情報の活用のために模索する芦屋市の姿から考察を深める。</p>
25分	<p>④自治体の限界に、住民としてどう取り組んでいくか考えながら視聴する。 (気がついた点などをノートにメモする)</p>  <p>・兵庫県佐用町の水害の様子 (19分31秒～35分14秒)</p>	<p>○地域住民の高齢化、市町村合併による広域化といった二重三重の防災力クライシスに苦しめられていた佐用町の例から、自分の暮らす地域の防災力クライシスについて考察を深める。</p> <p>※地区に潜む危険箇所などあげてみる。</p> <p>○広域支援が期待できない時間帯では、自治体と住民でしか命を守る方法がないことを踏まえ、自分たちで取り組めることを考える。</p>
25分	<p>⑤住民としての取り組みを踏まえ、続きを視聴する。</p>  <p>・大都市での災害イメージ ・ビル内に取り残される大勢の被災者 (35分14秒～終わり)</p>	<p>○通勤・通学・買い物客など、住民以外の人たちをどう救うかに着目する。</p> <p>○医師不足・病床数の減少・住民数しか備蓄していない医薬品などの現状を踏まえ、市と住民の連携について考察を深める。町全体での防災対策について、番組の内容から話し合う。</p>
10分	<p>⑥本時の活動を振り返り、自治体と住民の連携により地域防災力を高めていくことを確認する。</p>	<p>○災害から命を守ることを大前提に、防災への取り組みの重要性を再認識させる。</p>

コラム

内閣府の示す防災基本計画を授業に活用する

番組でも取り上げあげられている地域防災計画ですが、まずは自分の暮らす地域の防災計画とハザードマップを確認しておくことで授業がより発展します。防災力クライシスなど番組の投げかける問題点に、具体的にイメージを膨らませ自治体と連携することの重要性について考察を深めることができます。また内閣府の中央防災会議が示す防災基本計画 (<http://www.bousai.go.jp/keikaku/kihon.html>) と照らし合わせ活用することで、様々な災害に対する被害を軽減するための、積極的かつ計画的な防災を考える学習ができます。